



津田左右吉物語⑧

北軽井沢での生活

たたなはる幾重の山の峡かいごとに

立つ白雲の動きてやまず ちかふみ

左右吉は夏（七月～九月）になると北軽井沢の山荘に、戦中・戦後の一時期を除き、滞在していました。暑い都内の生活を避けて、

学問の研究に専念するためでした。

左記の歌は山荘で、左右吉が書見の疲れを休めるため、窓の外を見た時の情景を詠んだものです。左右吉のここでの研究生活が偲ばれます。左右吉の死後、栗田先生（早稲田大学名誉教授）と岩波書店によって、この歌碑が山荘跡に建てられました。

* 「たたなはる」…「かさなり合う」

* ちかふみ（親文）…左右吉の幼名。



◀ 北軽井沢の山荘